JENESYS2016

JENESYS2016 招へいプログラム７陣

対象国：カンボジア　テーマ：（社会）地方分権（地方創生、地域活性化含）
対象国：ベトナム　テーマ：（社会）若手行政官交流
対象国：ラオス　テーマ：（社会）平和構築、核不拡散分野交流
の記録

１．プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2016」として、カンボジアより社会人および大学生計 26 名、ベトナムより社会人 24 名、ラオスより高校生および大学生の計 25 名が、12 月 6 日～12 月 13 日の 7 泊 8 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史、教育及び外交政策等などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。地方自治体訪問、企業訪問、学校交流、ホームステイ等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】カンボジア　26名、ベトナム　24名、ラオス　25名（五十音順）

【訪問地】東京都（全員）、徳島県（カンボジア26名）、大阪府（ベトナム24名）、京都府（ベトナム24名）、長崎県（ラオス25名）

２．日程

１２月６日（火）　成田国際空港より入国
【オリエンテーション】
１２月７日（水）　【日本理解講義/基調講演】
【歴史的建造物視察/ 伝統文化視察】浅草、江戸東京博物館
（カンボジア、ラオス）
【都内視察】外務省、人事院（ベトナム）
１２月８日（木）～　１２月１１日（日）
国ごとに分かれ、各地方へ移動

１．カンボジア（社会）：徳島県
【地域産業・企業視察】株式会社いろどり（農産物、建築土木資材用木材加工品等）
【地域産業・企業視察】神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス（地域振興事業）
【学校交流】徳島県立徳島商業高等学校
【ホームステイ】

【ホームステイ歓送会】
【ワークショップ】
【文化体験】阿波おどり

２．ベトナム（社会）：大阪府、京都府
【経済関連講義】公益財団法人関西経済連合会
【自治体関連施設視察】堺市立総合医療センター、
家原大池体育館
【地域概要講義】境市役所
【最先端技術視察】三宝下水処理場
【文化体験】茶道体験
【地域産業視察】堺伝統産業会館
【商業施設訪問】道頓堀・周辺
【防災関連施設視察】大阪市立阿倍野防災センター
【歴史的建造物視察】清水寺
【地域産業視察】伝統産業ふれあい館
【ワークショップ】

３．ラオス（社会）：長崎県
【地方自治体表敬訪問】諫早市
【歴史的建造物視察】軍艦島
【学校交流】長崎大学教育学部
【歴史的建造物視察】長崎原爆資料館・被爆体験講話
【ホームステイ対面式】
【文化体験】寿司作り
【ホームステイ】
【文化体験】餅つき
【ホームステイ歓送会】
【ワークショップ】

１２月１２日（月）　地方プログラム終了後、東京へ移動
【報告会】（全員）

１２月１３日（火）　【都内視察】検察庁（ベトナム（社会）のみ）
成田国際空港より出国

２． プログラム記録写真

都内共通

12/7 【日本理解講義/基調講演】	12/7【都内視察】外務省、人事院（ベトナム）
【Lecture on Japanese Culture/Key Note Lecture】	【Observation/Opinion Exchange】Ministry of Foreign Affairs, National Personnel Authority (Vietnam)

カンボジア：徳島県

12/8【地域産業・企業視察】株式会社いろどり	12/9【地域産業・企業視察】神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス
【Observation of Regional Industry / Company】Irodori Co., Ltd.	【Observation of Regional Industry / Company】Kamiyama Valley Satellite Office Complex

12/9【学校交流】徳島県立徳島商業高等学校	12/10 【ホームステイ】三好市・東みよし町
【School Exchange】Tokushima Commercial High School	【Homestay】Miyoshi city, Higashi Miyoshi town
12/11【ホームステイ】三好市・東みよし町	12/11 【ワークショップ】
【Homestay】Miyoshi city, Higashi Miyoshi town	【Workshop】

ベトナム：大阪府・京都府

12/8【経済関連講義】関西経済連合会（大阪市）	12/8【自治体関連施設視察】堺市立総合医療センター
【 Lecture on Economic field 】 Kansai Economic Federation (Kankeiren)	【Observation of City-related facility】 Sakai City Medical Center

12/9【自治体理解講義・地域概要講義】堺市役所	12/9【自治体・視察】堺市役所・市議会場
【Lecture on Outline of the Region & Sakai City Government】Sakai City Hall	【Observation of City-related facility】Sakai City Assembly Hall
12/9【最先端技術・自治体関連施設視察】三宝下水処理場（堺市）	12/9【自治体関連施設視察】J-GREEN（堺市）
【Observation of Cutting-Edge Technology】Sakai city Sambo sewage treatment plant	【Observation of City-related facility】J-GREEN Sakai
12/10【文化体験・自治体関連施設・視察】さかい利晶の杜（堺市）	12/10【地域産業・自治体関連施設・視察】堺伝統産業会館（堺市）
【Cultural Experience & Observation of City-related facility】Sakai Plaza of Rikyu & Akiko	【Observation of Regional Industry】Sakai City Traditional Museum

12/10【防災関連施設視察】大阪市立阿倍野防災センター（大阪市）	12/11【歴史的建造物視察】清水寺（京都市）
【 Observation of Disaster prevention-related facility 】 Osaka City Abeno Life Safty Learning Center	【Observation of Historical Landmark】 Kiyomizu-dera Temple (Kyoto City)
12/11【地域産業・自治体関連施設視察】京都伝統産業ふれあい館（京都市）	12/11【ワークショップ】京都市国際交流会館
【 Lecture & Observation of Regional Industry 】 Kyoto Museum of Traditional Crafts (Kyoto City)	【Workshop】 (Kyoto City)

ラオス（長崎）

12/8【地方自治体講義】諫早市	12/8【歴史的建造物視察】軍艦島
[Observation of Historical Landmark] Isahaya City Government	[Observation of Historical Landmark] Gunkanjima Island
12/9【学校交流】長崎大学教育学部	12/9【文化体験】寿司作り
【School Exchange】 Faculty of Education, Nagasaki University	【Culture Experience】 Sushi Making
12/9【視察】被爆者講演	12/11【ワークショップ】
【 Observation 】 Story-telling by A-bomb survivor	[Workshop]

３． 参加者の感想（抜粋）

◆ カンボジア　社会人

日本はアジアの中で最も経済が発展している国ですが、自然災害が多く地震・台風・津波等は多発しています。その上、日本は第二次世界大戦後、重大な被害を受けましたにも関わらず、日本は急速なスピードで国の発展を成し遂げました。国民の生活に関しては、都会と地方の格差が少なく、これは日本国の中央政府の政策が成功した証だと考え、国を発展させる為に基礎であり、この様に日本は先進国となったのは地方の活力があるからこそだと思います。

一方、日本人の生活態度についてですが、素朴で親切、お互いを尊重し、衛生的で上品です。これは、日本人は長寿で活発的な国民になったと考えます。また、日本人は各自の責務・責任を果たし、これは政治安定と社会の安全を保っています。 Jenesys2016 に参加する事により、私は様々な知識・経験を得る事が出来ました。カンボジアの地方公務員として、有効活用して地元を発展させる政策に活かしたいと考えていますこのプログラムは有意義であり、各国の青年は日本について学び・理解し、そして、日本及び各国との友好関係を深める事が出来たと思います。

◆ ラオス　社会人

私は平和構築は素晴らしいことであり、全ての人がこれに取り組まなければならないと考えます。平和構築とはお互いが努力して理解しあう事で、心を開く、お互いを許しあうことです。従って今回JENESYS2016の参加は、私に平和構築を学ぶチャンスをあたえてくれ、いい経験になりました。よく言われるように、平和構築とは、相手を理解すること、自分の心を開いて相手の話を聞くことにより生まれてきます。今回の JENESYS 参加により、わたしは日本人を理解し勉強し、日本について色々なことを理解することができました。それは日本の歴史であり、日本人の生活様式、礼儀正しいマナーです。これらのことにより忘れることのできない素晴らしい友好を築くことができた。わたしが感激したことは、長崎県諫早市を表敬訪問した時に受けた、温かい心のこもった歓迎です。諫早市の市庁舎に我々が向かう際に、我々一行が目にしたのは、日本人グループが立って、ラオスと日本の国旗を持ち、笑顔で Welcome to Isahaya（諫早にようこそ）と書かれたポスターを持ち、ラオス青年グループを熱烈に出迎えてくれました。このようなことは、人生で初めての経験でした。わたしは心が温かくなり、光栄で、感激で胸が詰まる思いでした。この気持ちを言葉でどのように表現したらいいかわかりません。わたしは日本で得た様々な経験や知識、特に日本人の考えを、ラオスに帰国後、学校の同級生、友人や若い世代の人たちに伝えていきたいです。

◆ ベトナム 社会人

プログラム中の講義を通して、日本の状況をよりよく理解できました。特に W 准教授の講義では、地方自治体に自治権を委譲して各自治体が自主的に経済活動を行ったり、各国との文化交流を推進したりする体制について、また日本の行政機関と組織機構について説明を受けました。その他にも、外務省訪問の際には専門官との意見交換、交流を通して、訪日団皆の関心事である“広範な戦略的パートナーシップ”にもとづく日本・ベトナムの政府レベルの外交関係や、行政機関の協力関係について知ることができました。政治、経済、文化の分野だけでない広範な協力関係（国家安全保障など）は、両国が関心を持っている問題でしょう。ベトナムに投資する、または在住する日本人が年々増加している今、関西経済連合会（関経連）の皆さんとお会いできたことは有意義でした。関経連の訪問を通じて、ベトナムに進出する企業の投資計画、政策について、また企業が憂慮する問題についてよく理解することができました

４． 受入れ側の感想

◆ プログラム受け入れ団体関係者

当会がベトナムに訪問団を派遣する際には、国家主席や首相・副首相、経済担当閣僚等と懇談させていただいています。今回、こうした国家指導者・政府要人の活動を支えておられるスタッフの皆さんと懇談し、当会の活動について理解を深めていただく機会がもてたことで、今後の当会のベトナム事業にもプラスになるものと考えています。ご質問が非常に多く、ご関心の高さがうかがわれました。

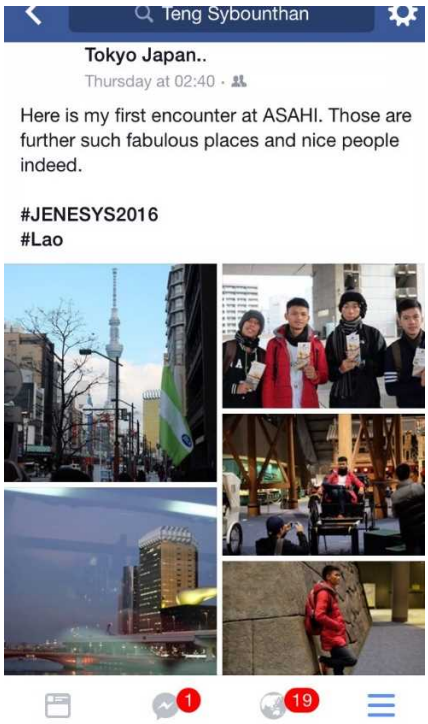
◆日本人大学生

ラオスの学生と交流して、お互い価値観の異なるもの同士が交流することは、新たな発見もあって楽しいものであると感じました。私は英語が苦手で、中学生レベルの英語しか話せませんが、相手の言いたいことを理解し、ジェスチャーを交えながら伝え、考えを共有できた時は大きな喜びを感じました。 また、平和についてディベートした際、相互理解や教育が大切だとラオスの学生も考えており、国を越えても同じ価値観もあるんだなと発見しました。この交流を機に、様々な人の考え方を知りたいと思いました。

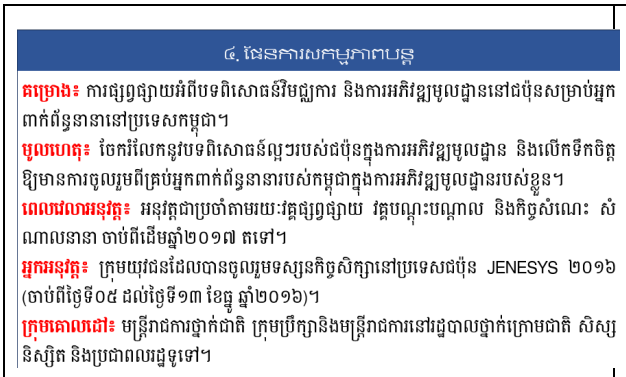
◆ホストファミリー

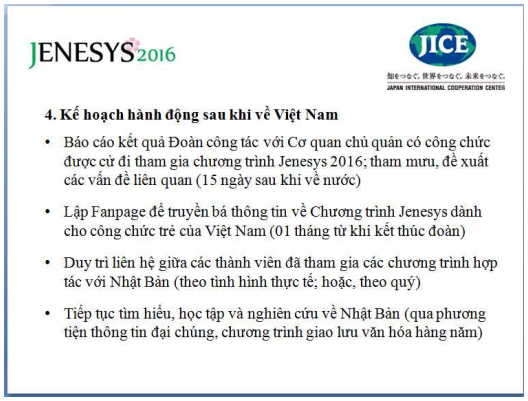
初めは不安いっぱいでありましたが、受け入れた二人の生徒が本当に良い方でした。また双方のスマートフォンで話をつなぎながら本当に有意義な交流ができました。 また、生徒勝ちよりスマートフォンでのカンボジアの紹介により、私たち家族もカンボジアに旅行している気分で本当にあっという間に時間が過ぎましたこと残念に思います。また再会できる機会があれば幸せです。

６．参加者の対外発信

	
日本の科学技術（ZALO） 日本の最先端科学技術は医療からインフラ、下水処理現場などにまで応用されている。	都内視察プログラム（Facebook） 浅草、江戸東京博物館等、日本の素晴らしい場所と人々。
Japanese high technology is applied to medical devices or infrastructure such as sewage treatment facilities.	Here is my first encounter at ASAHI. Those are further such fabulous places and nice people indeed.

７．報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<table>
<tr>
<td> 
</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>カンボジア
「日本の地方分権および地方創生についてカンボジアで発信すること」
日本の地方創生の素晴らしさを共有し、自分の地域の発展のために全ての関係者からの参加を奨励する。
- 地方における持続的な環境開発に関する基本計画書を作成する。
- 市民の収入増加のために直接地元にある資源を活用する。
- 地方分権の政策実施に官僚及び市民が責任を持って参加するよう促進する。
2017 年のはじめから定期的な広報活動、研修会を様々な現場の訪問の際に行う。</td>
<td>ラオス
（概要）アクション・プランの発表
来日前の日本に関する知識、来日後、長崎大学の学生との平和についての意見交換会、被爆者体験講話、長崎の原爆資料館、ホームステイから学んだこと。テーマである平和構築、核不拡散を発信するため、帰国後、FB や YouTube などの SNS にアップロードする。</td>
</tr>
<tr>
<td>Action Plan (Cambodia)
・Spread out Japanese decentralization/ local revitalization to Cambodian people.
・Share goodness of Japanese regional creative activities among Cambodian people and urge them to join the efforts for the local development.
・Make a basic plan for sustainable development of the regional environment.
・Make use of our own local resources to enhance revenues of people.
・Promote participation by people and government officials in the implementation of decentralization policies.
・Make publicity activities and hold training workshop when visiting various sites or fields starting in January 2017.</td>
<td>Action Plan (Laos)
Based upon the knowledge before visiting Japan, and what we have learned in Nagasaki Atomic Bomb Museum, the opinion exchange on the peacebuilding with Nagasaki University students, the story told by an atomic bomb victim, and homestay at local host families,
When returning to our home country, we will spread out the importance of peacebuilding and nuclear nonproliferation through network in SNS such as Facebook or YouTube.</td>
</tr>
</table>

	
ベトナム 帰国後 15 日：JENESYS2016 プログラム参加者のそれぞれの所属機関において成果報告をする。関連事項に関する助言、提言などを行う。 ・帰国後 1 か月：“ベトナム若手行政官交流”に関する情報発信・共有のための Fanpage を作る。 ・状況に応じて適時または 4 半期に 1 度：日本の交流プログラムに参加したメンバーとの関係を維持する。 ・継続的に日本について学習・研究し、理解を深める。（マスメディア、文化交流プログラムを通じて）	
Action Plan (Vietnam) ・(In 15 days after returning to our country) each JENESYS2016 participant makes progress report in his/her respective organization. ・(In 1 month after returning to our country) start fanpage among Vietnamese Young Government Officials in order for information sharing and dissemination. ・(Quarterly or when necessary) Make contact with Japanese participants who joined the exchange program. ・(Continuously) Keep on study and research on Japan and enhance our understanding through mass media or cultural exchange programs.	